

平成 30 年度日臨技九州支部医学検査学会（第 53 回）

学会長 野中 恵美

（公益社団法人 大分県臨床検査技師会 副会長）

平成 30 年度日臨技九州支部医学検査学会（第 53 回）は、（公社）大分県臨床検査技師会の担当で平成 30 年 10 月 6 日（土）、7 日（日）の両日に別府国際コンベンションセンタービーコンプラザを会場として開催いたします。

本学会のメインテーマは、“協（かなう）”サブテーマを～多職種との連携と他職種との協働～としました。“協（かなう）”の意味ですが、文字から連想されるとおり力を合わせることで。しかしこの文字にはもっと深い意味があります。

“協”の部首である十の一は東西を意味し、縦の丨は南北の意味があります。これらは東西南北と色々な方向を向いている力を合わせて 1 つの目的を成し遂げるとの解釈ができます。医療に例えると、専門性の異なった医療スタッフが連携して、患者一人一人の診断・治療を目的として一丸となって働いています。

私たち臨床検査技師の専門性を活かすためにも、医療スタッフの連携が必要不可欠です。本学会は、一般演題をはじめ教育講演、文化講演、シンポジウム、学生フォーラム、学術部門別企画など計画しております。教育講演では、臨床検査技師から研究部門に進み、その研究成果から数々の賞を受賞された大分大学全学研究推進機構教授で“スーパー抗体酵素”を発見された一二三恵美教授に「スキルと抗体酵素のお話」と題してご講演頂きます。また、シンポジウムには学会のサブテーマである「多職種との連携と他職種との協働」を掲げ、ICT、NST、AST、輸血、在宅医療で接点の多い他職種の方にシンポジストをお願いしています。さらに担当県企画として、「検査技師から広がる可能性」をテーマに試薬開発やシステム開発、医師、研究者に転身された方々からのお話をシンポジウム形式で行う予定です。文化講演は、市民に馴染みのあるアフリカンサファリの獣医師として活躍されている神田岳委先生に「動物と共に生きる」と題してご講演頂きます。同時に市民や学生に臨床検査技師の仕事などを知って頂くためのブースも併設する予定です。

大分県では、“国民文化祭 2018”の担当県であり奇しくも学会開催と時期が同じであるため沢山の来県者が予想されます。県民一丸となっておもてなしさせていただきます。

また、ラグビーワールドカップの公認キャンプ地としても大分市、別府市の見どころ満載です。九州各県の皆様に山の幸、海の幸、風光明媚な温泉県大分を楽しんでいただきたいと思っております。

日臨技九州支部医学検査学会（第 53 回）は平成最後の学会となりますが、“協（かなう）”の文字を胸に ONE - UP してみませんか。

多くの方のご参加を、（公社）大分県臨床検査技師会会員一同、心よりお待ちしております。